



この不思議な石碑については、右に書いた以上のことはよく分からない。山口県教育委員会による「歴史の道調査報告書 5 石州街道」を開いても、それ程詳しくは触れられていない。右の記事はその他の情報も織り込んで何とか書いたものだが、せいぜいこの程度である。それなのにこの石碑をイラストに描こうと思ったのは、文末にも書いているように、周囲を覆った草花の余りにいたいけな姿とおどろおどろしい石碑そのものとの不思議な対比のためである。

それで、一体この草花は何と云うのだろうか、記憶をたどりながらネットであれこれ探してみても、たぶんこれで間違いないという結論に達したのがミゾソバである。右がその写真だが、下手のイラストからも、それらしい雰囲気は見て取れるだろう。本州四国九州の田圃の用水路脇に良く見られるとのこと。見た目がソバに似ていることから、この和名がついた。植物の知識などないのだが、確かに菵往還の佐々並で見たソバ畑のソバに雰囲気は似ていると言える。

さて、石州街道もあと2回で半分となる。あらかじめ描いている 18 回目は篠目駅である。石州街道と言いながら、JR 山口線の篠目駅を敢えて入れたのには二つわけがある。その一つは今年 JR 山口線が 100 周年を迎えたこと、そして篠目駅には SL 時代の給水塔が今も残っていて絵になるからである。残りの 18 回分のうち、徳佐までの 15 回分はほぼ決まっていて取材済み。今秋には徳佐在住のガイドさんをお願いして野坂峠まで足を延ばし、残り3か所分を決定する予定でいる。当初決めたように石州街道も三十六景まで続けるつもりである。(2023.7.26 記)

阿東(野坂峠) 津和野
山口 小郷(津市)
● 三界萬靈塔

イラストでたどる石州街道 16 三界萬靈塔

中郷地区に入る道を篠目川沿いに少し進むと、右手に三界萬靈塔という不思議な石碑が立っている。碑からは元禄十五年という文字が微かに読み取れ、この奥にあった観音堂と庵の入口を示すものだという。

三界とは欲界(物欲、食欲、性欲)、色界(物質の世界、無色界、精神の世界)或いは、過去、現在、未来を示すのだとされている。そしてこの世の生きとし生けるもの総ての霊を宿しているのが、この塔というところらしい。凡人にしてみれば何とも難しい仏教的解釈なのだが、小さな花を付けた野草の間からぬつと突き出た碑は、そのまま通り過ぎるのを躊躇させるような雰囲気を感じ出して、しばし筆者は、見入っていた。

文イラスト II
古谷眞之助

